

縄文時代の成果（1）

宮ノ上遺跡では、4,000年前の縄文時代後期前半の多彩な土器が報告されています。中には岡山の前山Ⅱ式土器もあり、幅広い交流がみられます。

山口遺跡では、7,800年前の塞ノ神 A 式土器でせの かん口縁部が屈曲した土器がまとまって出ています。
こうえんぶ くつきよく ※

鳴野原遺跡 B 地点では、この時期の壺形土器とじ せん耳栓が報告されています。また、かねつき鐘付遺跡でも埋まい設された深鉢形土器と壺形土器が報告されました。

高吉 B 遺跡と稲荷迫遺跡では、8,000年～7,400年前までの集石が多く検出されましたが、土器の個体数は多くありません。狩猟を目的としたキャンプサイトの可能性もあります。

※ 山口遺跡の塞ノ神 A 式土器は、現在、整理作業中のため展示していません。



縄文時代の成果（2）

各型式の土器が一・二個体しかみられない例は、堀之内遺跡でも確認されました。定住だけでなく、いろいろな暮らし方が縄文時代にあったことがうかがえます。

8,500年前の石坂式土器を主体とする田原迫ノ上遺跡では、くんせい 竪穴住居やれんけつ 燻製調理用の連穴土坑も検出されました。石坂式土器の時期まで連穴土坑が残ることを、明らかにしました。

